国交正常化45周年　中国特集

海洋シルクロードの起点中国福建省

今年2017年は日本と中国の国交正常化45周年。両国で多くの記念事業が予定されている。さらに中国では日本人観光客のさらなる誘致に向けて、省や地域ごとのPR活動も盛んだ。国交正常化45周年中国特集。今回は海洋シルクロードや世界遺産が注目を集めている福建省を取り上げた。

華僑の故郷「福州」、世界遺産「武夷山」、美しい島「アモイ」

天游峰から一望する九曲渓の景色

福州

福州は福建省の省都で、人口約730万人。同省の政治、経済の中心地だ。榕樹（ようじゅ、ガジュマル）の木があちこちに植えられていることから、「榕城」との異名がある。閩（びん）江の下流に位置し、福建省全体の異名は「閩」。同省の泉州とともに古くから海外との交易が盛んで、東南アジアやインド、アラビアへ向かう「海洋シルクロード」の起点として、漢の時代から発展を遂げるとともに、多くの華僑を世界に送り出した。明清時代は琉球（沖縄）との交易も多く、琉球館（柔遠駅）と呼ばれる琉球人の滞在施設が市内に置かれた。「三坊七巷」など見るべき観光地も多い。

●三坊七巷

町の中心の旧市街にある散策路。唐代に形成された古い町並みが残り、中国の十大歴史文化名街の一つとされる。戦乱を逃れて儒学者たちが移り住んだのが始まりで、その歴史は1200年を超えるという。

メインストリートの「南後街」はレトロな雰囲気に再開発され、飲食店やみやげ店が1キロ弱にわたり軒を連ねる。昼夜を問わず多くの観光客でにぎわう。

一方、「光禄坊」「文儒坊」「衣綿坊」という三つの路地、「吉庇巷」「宮巷」「安民巷」など七つの小道は、古民家が立ち並ぶ落ち着いたたたずまいとなっている。

レトロな街並みが印象的な三坊七巷（南後街）

省の政治、経済の中心 レトロな街並みが人気

落ち着いたたたずまいの小道（三坊七巷・安民巷）

●林則徐記念館

アヘン戦争で指揮を執った福州出身の政治家、林則徐の記念館。林則徐自身や戦争にまつわるさまざまな展示がある。三坊七巷から歩いてすぐ。

●西湖公園

市内中心にある、1700年の歴史を持つ古い公園。人工湖の周りには市の木、榕樹が随所に見られる。敷地内に「福建博物館」も。

●于山

市内中心の小高い丘。白塔が立つ白塔寺などの見どころがある。

●石竹山

標高534㍍。中腹にある石竹寺は唐代に建てられた古刹で、道教を主体にしながら仏教や儒教も混在する独特の寺院となっている。ここで見た夢は実際にかなうと有名で、境内の至るところに〝仮眠所〟があるのが面白い。境内近くまでロープウエーが運行している。

福清

福清は福州市の中心からおよそ100キロ。福州市の中の県級市の位置付けで、主な産業は米作などの農業やプラスチック、ガラスなどの工業。人口はおよそ150万人だが、300万人の同市出身華僑が世界で活躍している。

日本との関わりも深い。禅宗の一派、黄檗（おうばく）宗の開祖、隠元禅師は福清の黄檗山万福寺で長く住職を務めたのち、日本に渡り、今の京都府宇治市に故郷と同名の寺を建立した。

人々の夢をかなえる古刹

石竹山中腹の展望台から石竹寺（右側）と石竹湖、湖に浮かぶ小島「鯉島」（左側）を望む

麓にはダム建設に伴い作られた人工湖の石竹湖があり、山の展望台から美しい景色を一望する。福建省十大風景区の一つ。

●瑞岩山風景区

高さ6・4㍍、幅8・9㍍と、中国最大の弥勒菩薩の石像がある。国の文化財に指定されている。

瑞岩山風景区の弥勒菩薩像

武夷山

武夷山は武夷山脈と九曲渓の山河の景色が美しい中国を代表する景勝地だ。1999年、ユネスコの世界自然遺産と文化遺産の複合遺産に登録された。

福建省内陸部、江西省との省境にあり、行政的には南平市の中の県級市、武夷山市に位置する。海岸線から約400キロの距離だが、2015年開通した中国版新幹線「合福高鉄」で省都の福州から約1時間半、アモイから約3時間半と交通が便利になった。

武夷山は銘茶の生産地としても名高い。山の岩場で栽培される「岩茶」（ウーロン茶）は古来、薬効があると人々から珍重されてきた。その最高級ブランドの「大紅袍（だいこうほう）」は、かつては皇室専用の茶で、今も年間400グラムしか採れないという貴重な逸品だ。岩山の特別な環境の中で栽培している。

武夷山はまた、南宋代の儒学者で、朱子学の創始者、朱熹（しゅき）が少年期と40代以降の約50年間過ごした場所でもある。朱熹が講学を行ったとされる「紫陽書院」などが残されている。

●九曲渓

武夷山脈の麓を流れる渓流。約9・5キロの距離で大きく湾曲する部分が九つあることからこの名が付いた。観光客は5～6人乗りの竹のいかだに乗り、およそ1時間半かけて少しのスリルを味わいながらゆっくりと川を下る。

いかだに乗って佳景楽しむ

九曲渓のいかだ下り。前方右に見えるのは玉女峰

いかだから「天游峰」「玉女峰」などの峰が織り成す佳景を眺める。船頭による見事なかいさばきと景色の説明（中国語）で、道中乗船客を飽きさせることがない。足元などが多少濡れるので、乗客はそれなりの装備が必要だ。

●天游峰

36の峰からなる武夷山のうち、最も高い峰。標高408㍍。山頂は九曲渓を見下ろす絶景スポットとなっている。約200㍍の地点からおよそ30分かけて急階段を上る。

●倣宋古街

九曲渓の下船場近くは宋の時代の街並みを再現した「倣宋古街」と呼ばれるおよそ300㍍のレトロな通りとなっている。

飲食、みやげ店や、朱熹記念館、武夷山博物館などが軒を連ねる。

厦門（アモイ）

厦門（アモイ）は福建省沿岸部にある人口およそ400万人の大都市。中国語では「シァメン」と発音されるが、現地語の閩南（びんなん）語の発音「アモイ」が世界で広く定着している。

1980年、深圳、珠海、汕頭とともに国の経済特区に指定された。以来、高い経済成長率を誇り、GDPの伸び率は最盛期に年間およそ16%、現在も9%程度を維持している。

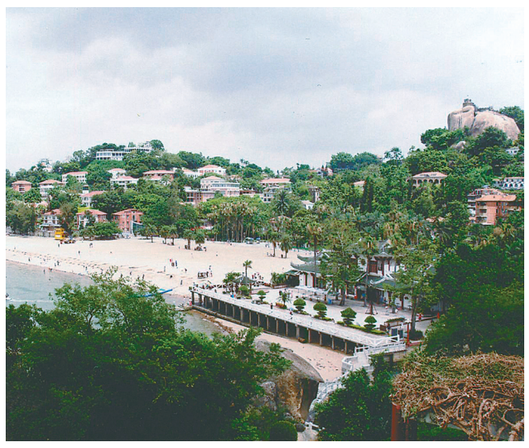
年間平均気温21度の温暖な気候、空気のよさ、美しい風景が人気で、「中国で一番住みやすい町」「一番目に観光で行きたい町（一番は海南島・三亜市）」の評価も。

●鼓浪嶼（コロンス島）

アモイ市中心部のアモイ本島の南西約500㍍にある面積約1・8平方キロの小島。美しい景色と独特の雰囲気から「海上の花園」の異名がある。

アヘン戦争、南京条約を機に共同租界地として日本やアメリカ、イギリス、フランスなどの西洋建築や教会などの西洋建築が作られた。また世界で財を成した華僑の別荘地ともなり、現在も千軒以上の西洋建築物が島内に残る。「万国建築博物館」の異名もあり、市の政府はユネスコの世界文化遺産登録を申請していたが、7月8日に登録が決まった。

島は「海上の花園」 万国建築の博物館


菽荘花園の高台から。右上に日光岩が見える

島内は自動車やバイク、自転車の乗り入れが禁止で、観光客は徒歩か、島内に20台ある電動カートで移動する。島へはフェリーで30分弱。アモイ本島の観光客専用埠頭から乗船、コロンス島の三丘田埠頭で下船する。

島内のほかの見どころは、島の景色を一望する島の最高峰「日光岩」、世界のオルガンを展示した「風琴博物館（八掛楼）」、台湾の富豪、林爾嘉が造った「菽荘（しゅくそう）花園」など。

●菽荘花園

コロンス島南部にある、海や崖など自然の地形を巧みに生かした庭園。1913年造営。海に浮かぶような橋や高台から庭や島の絶景を見渡す。園内には世界のピアノを集めた「鋼琴博物館」もある。

●集美学村

シンガポールに渡り、ゴム工場の経営で成功したアモイ出身の華僑、陳嘉庚の寄付により、1913年に作られた学園都市。小学校から大学まであり、中国の伝統的建築や洋風建築、海沿いの景色など、風光明媚なエリアとなっている。

旧日本領事館

中国国家観光局駐日本代表処